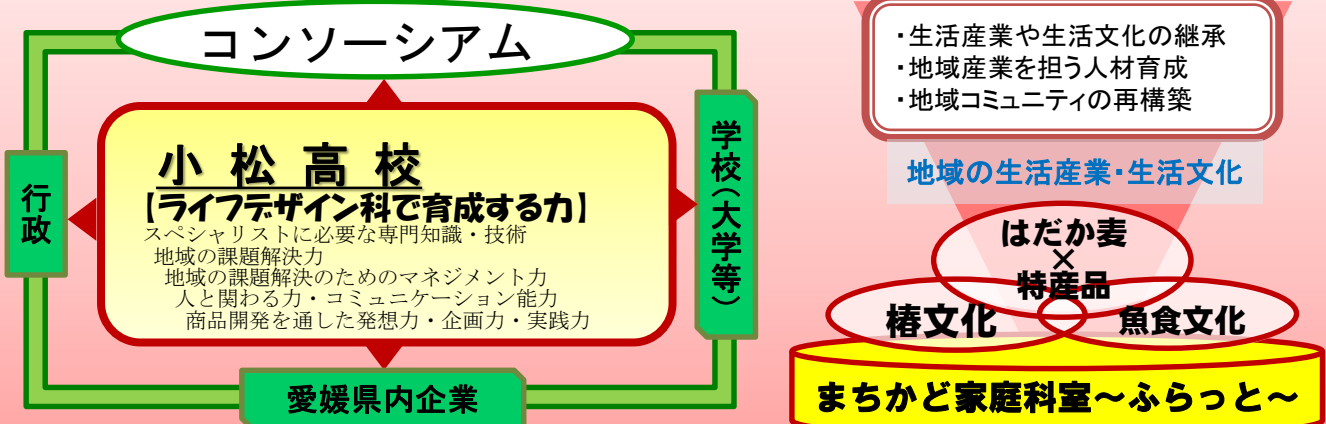


生活文化の伝承と多世代交流
共生のまちづくりに貢献する人材の育成



地域との協働による地域課題研究を通じた人材育成プログラム



地域に根差し、共生のまちづくりに貢献できる人材

新たな価値を創造し、主体的に行動する力

3年次
地域の生活産業・生活文化を**広め、地域に貢献する**

- はだか麦・魚を使用したオリジナルレシピの提案と商品開発
- 椿油・椿花・椿実を使用した新たな特産品の提案と制作活動
- 地元産直市やアンテナショップでの販売活動
- HPやSNS等による情報発信で県内外への普及活動
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催による地域コミュニティの再構築

確かな知識と技術を持ち、他者と協働して地域に貢献する人材

2年次
地域の生活産業・生活文化を**研究し、課題解決を図る**

- 椿・伝統的魚食文化・はだか麦×特産品の研究
- 食のコンクールへの挑戦やインターンシップの実施
- 産官学連携による商品開発・オリジナルレシピの開発
- 日本を代表する伝統工芸研修
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催による地域コミュニティの再構築

地域資源の産業化・商品化へつなげる技術力、企画力、実践力を持つ人材

1年次
地域の生活産業・生活文化を**知り、課題を考える**

- 地場産業見学（椿ハウス、魚市場、手すき和紙等）
- SDGsと地域課題について学習
- 地域人材を活用した実践的学習活動
- 異年齢者との交流による地域コミュニティ参加
- タブレットを活用した調べ学習や協働学習
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催

学校設定科目「ライフデザイン」、科目「課題研究」で実施 SNS等による発信

地域の伝統産業・伝統文化に興味・関心を持ち、他者と情報を共有して地域の魅力を創出できる人材



小松つばき会、愛媛大学、市内漁協、西条市と協働

類型名	ふりがな	えひめけん きょういくいいんかい	ふりがな	えひめけんりつこまつこうとうがっこう
プロフェッショナル型	管理機関名	愛媛県教員委員会	学校名	愛媛県立小松高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名： 愛媛県教育委員会

代表者名： 三好 伊佐夫

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名： 愛媛県立小松高等学校 学科： 普通科 専門学科 総合学科

校長名： 森岡 淳二

研究を実施する学科（プロフェッショナル型のみ）：

①単独学科での実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉
					○			
②学科連携による実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉

2 取組内容

「生活文化の伝承と多世代交流 共生のまちづくりに貢献する人材の育成」

本校が位置する愛媛県西条市は、海と平野と山が揃った自然環境豊かな都市であり、四国最大級の工業都市として、また、四国最大の経営耕地面積を誇る農業都市として発展してきた。しかしながら、近年地域経済の衰退による都市部への人口流出や少子高齢化が加速しており、地域コミュニティにも深刻な影響を及ぼしている。**人口減少の克服、地域経済の発展、活力ある地域コミュニティの再構築**などの課題が山積している。

そのような中、本校**ライフデザイン科**は、県立高校**唯一の家庭に関する専門学科**として、専門教科「家庭」を幅広く学び、**将来地域社会に貢献できる生徒の育成**を目指している。2年次からは、二つのコースに分かれ、ライフデザインコースでは、ライフステージにおける家族・家庭、衣・食・住などの生活課題を専門的に学習し、生活関連産業に従事できる能力を養うこと、ヒューマンサービスコースでは、高齢者の福祉と乳幼児の保育に関する専門的な知識と技術を習得し、少子・高齢社会の福祉ニーズを支える人材を育成することを目標としている。

平成27年度には、県教育委員会からの指定を受けて、**「地域の担い手育成のための専門科目における指導法の研究」**として、「**地域のスペシャリストとして、他者と協働しながら地域に根差す生徒を育てる効果的な指導方法を整理・研究し、地域と共に育つ意識を持った生徒を育てる**」という目標を掲げ、研究に取り組んだ。実施後も、家庭科専門科目だけにとどまらず、学校教育全般にわたって教育活動における実践を継続している。

本研究では、こうしたこれまでの研究を発展させ、少子高齢化や人口減少が進展する中、**持続可能な社会の構築に向け、課題意識を持ち、生涯にわたって様々な人と協働しながら、地域課題の解決を目指して主体的に行動し、生活文化の継承、生活産業の振興や多世代交流、共生のまちづくりに貢献する地域人材の育成**を目的とする。地域人材に必要な力は以下のとおりであり、今後構築するコンソーシアムと協働して取り組む地域課題研究を通して育成する。

- 地域で活躍する人材として必要な専門的知識・技術
- 地域の課題発見力・課題解決力
- 地域の課題解決のためのマネジメント力
- 他者と協働し学びを深めるコミュニケーション能力
- 商品開発を通じた発想力・企画力・実践力
- 地域課題研究の成果をまとめ、発表する表現力

以上のような力を身に付けた地域人材を育成するため、本研究では、地域課題研究を「課題研究」だけでなく専門教科「家庭」の他の科目や「福祉」の各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムや学習指導法、地域課題研究の評価方法の研究、コンソーシアムとの連携の在り方について研究する。

持続可能な社会の構築に向けた視点から、地域と協働しながら課題解決に取り組みたいテーマは次の3点である。

(1) 「椿の香りと文化」のまちづくりの活性化

本校が位置する西条市小松町は、小松藩一柳家一万石が幕末までこの地を治めていた。儒学者で伊予聖人といわれた近藤篤山を招いて藩校「養正館」を設置するなど、教育や文化を重視した地域である。近藤篤山が「椿」を好んでおり、町民は椿を育てることで師の教えを受け継いできた。前身である小松実用女学校は藩校「養正館」の跡地に建てられ、師の教えは校是となり現在に伝えられ、庭園には椿が植えられている。西条市では、「椿の香りと文化」をまちづくりの中心に据え、観光PRと椿普及、高齢者の生きがいに努めたが、「椿」の栽培は一部の愛好家にとどまり、市内、県内へのPRも不十分であった。このような反省を踏まえ、従来の価値にとどまらず、地域資源の多角化を研究し、新たな価値を付加した地域の特産品を開発してブランド化すること、それを適切に情報発信し、地域の活性化につなげることが必要である。

(2) 生活文化・生活産業の振興

西条市には豊かな自然を生かし、はだか麦、ほうれん草、絹かわなす、七草など優れた農産品が数多くある。水産業においては、盛んなのり養殖のほか、ワタリガニ、シャコ、サワラ、エビ等の西条ブランドがある。しかし、全国的に見るとこれらの知名度は低い。地域に根づく魚食文化も失われつつあり、地域が誇る貴重な資源や食文化の価値は若い世代にうまく伝わらず、その継承も行われていない。これらの生活産業や生活文化の振興のためには、地域資源や伝統文化の価値を知り、新たなレシピや加工品を開発して普及することで、地域への誇りや愛着心を醸成し、使命感をもって全国に西条ブランドを広め、地域の魅力化・活性化に仲間とともに寄与する人材を育てなければならない。

(3) 地域コミュニティの活性化

西条市において、高齢化率は平成 27 年度で 30%を超え、高齢者のいる世帯は一般世帯の 48.2%、そのうち、高齢者一人暮らし世帯及び高齢者夫婦のみの世帯が 69.1%を占めている。地域における人間関係の希薄化による相互扶助機能の低下は、西条市においても懸念されており、互いに支え合う地域コミュニティの構築が求められている。地域に住む高校生として、子育て支援や高齢者の生きがいに参画し、互いに学び合う「まちかど家庭科室～ふらっと～」を企画し、平成 31 年 4 月に小松地区にオープンした「西条市子育て交流センター」と協働して実施し、コミュニティの活性化を図る。実施してきたこれまでの交流に加え、生徒が企画から準備、運営までを主体で行う過程で、マネジメント力やコミュニケーション力を身に付け、人口減少や核家族化等により薄れつつある地域コミュニティの再構築に貢献できる人材を育成したい。また、生涯を見通した自己の生活について、将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を認識させ、3年間の学びを経て地域の産業スペシャリストとして従事する自分の姿や、そのライフスタイルを実現するための生活設計力を育てていきたい。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
愛媛大学地域協働センター西条	センター長 羽藤 堅治
日本つばき協会支部 愛媛・小松つばき会	会長 佐伯 隆
株式会社 マルブン	社長 眞鍋 明
(株) まちでこ	代表 處 淳子
小松小学校	校長 藤原 正三
小松中学校	校長 岡田 光
西条市小松総合支所	所長 玉井 宏治
西条市小松子育て支援センター	センター長 玉置 和博
西条市小松公民館	館長 曾我部米治
愛媛県農林水産部漁政課	課長 橋田 直久
愛媛県教育委員会高校教育課	課長 和田 真志
愛媛県立小松高等学校	校長 森岡 淳二

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

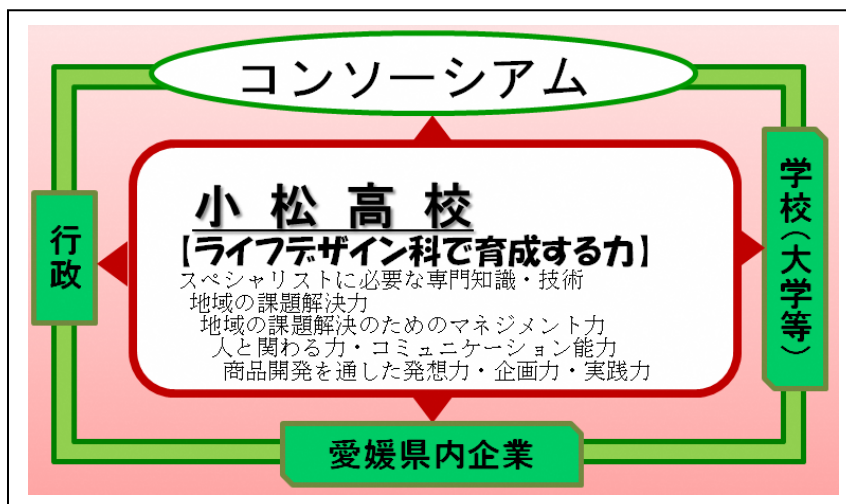
平成 27 年国勢調査における本市の総人口は 108, 174 人であり、**平成 22 年から 3, 917 人減少**している。また、国立社会保障・人口問題研究所による人口推計によると、2025 年の本市総合人口は 102, 142 人になると予測されている。

本事業の実施により、高校卒業後、**地域の産業に従事し、地域に貢献したいと考える生徒、及び、地域課題の解決を目指して共生のまちづくりに貢献したいという志をもとに大学等で学びたいと考える生徒の育成**を目指したい。

本コンソーシアムの第 1 回検討会議で、**将来の地域ビジョン・求める人材像、連携方法、年度計画、生徒が取り組む地域課題等**について協議を深め、連携を図りたい。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

検討会議を年 2 回開催し、カリキュラム開発の進捗状況や改善点について検討する。地域課題研究が充実するよう、地域資源の紹介、課題解決方法等について助言を行う。



(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）の指定及び配置計画

カリキュラム開発等専門家は、**地域や学校のニーズや現状・課題の分析を通じたカリキュラム開発及び人材の発掘、教育資源の収集・整理等のプロジェクトマネジメント**等重要な役割を担うため、地域にも教育にも精通している、**元県立高校家庭科教員 藤岡英子氏**を登用する。

また、家庭科に関して指導力を有する当支援員の助言を得ながら、**eポートフォリオの作成・活用**を行うことで、地域との協働学習によって得た**自分の成長過程を振り返らせ**、愛媛大学等が「課題研究」の評価をより公平かつ客観的に行うために開発に取り組んでいる**ルーブリック**について、**本科の生徒の実態に合わせて改変し、より適切な評価方法を研究したい。**

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

地域協働学習実施支援員は、**各教科・科目や総合的な探究の時間等の実施における外部との調整、探究的な学習活動のファシリテーションに係る業務**を担うことから、**地域の産業界の実情を把握しており、地域課題の学びについての有効な助言・学校と地域との連携強化を担う役割が期待できるほか、生徒が地域産業に従事していく上でのロールモデルともなり得る、まちでこ代表 處 淳子を支援員として配置**する。

(6) 運営指導委員会の体制

機関名	機関の代表者名
愛媛大学地域協働センター西条	センター長 羽藤 堅治
愛媛大学教育学部（愛媛県家庭科研究会）	教授（会長） 藤田 昌子
株式会社 マルブン	社長 眞鍋 明
西条市小松総合支所	所長 玉井 宏治
西条市小松公民館	館長 曾我部米治
愛媛県立西条農業高等学校	校長 松永 泰

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

○ 研究成果の報告

毎年、年度末に運営指導委員会関係者、企業関係者及び地域の中学生、本校生徒を対象に「**地域協働学習成果発表会**」を行うとともに、県内の高等学校の生徒、教職員及び中学生を対象とした「**えひめ高等学校成果発表報告会**」（愛媛県教育委員会主催）において**研究成果報告**を行う。また、本校文化祭「小松高祭」における本校生徒及び保護者を対象とした「**ライフデザイン科地域事業成果発表会**」の実施及び宇和島水産高校（SPH指定校）で学ぶ生徒による「**SPH研究発表会**」に参加し、愛媛の水産業が地域創生に果たす役割等を学び、積極的な意見交換を行うなどして、相互に成果の普及・深化を図る。

さらには、他県の、家庭に関する学科を設置する学校と合同で、**ICTを活用した遠隔地実践発表及び意見交換**を行うことで、**学びのネットワークの構築・知識の共有**を図る。

また、毎月発行している、「**ライフデザイン科だより**」に各月の活動内容及び成果をまとめ、本校生徒及び近隣の中学校に配布することで、中学生の保護者等にも周知を図る。

○ 事業成果の検証に向けた計画

事業実施毎に生徒及び地域の参加者に**アンケートを実施し、結果を分析**することで、活動の振り返りを行う。また、**運営指導委員会で報告を行い、指導を仰ぐ**ことで、活動の見直しや深化を図る。本委員会においては、本校の実態に合わせて作成した**ルーブリックを活用したパフォーマンス評価について指導いただく中で、評価の改善を図り、より適切な評価方法を研究**する。さらには、**企業、生徒、学校等を対象に**、今回の事業で取り組む内容のうち重要な項目「地域人材の育成」「商品開発」「地域課題研究」等について、**アウトプット・アウトカムについて多方面から評価を行うなど、実施したプログラムのうち、どの内容が効果的であったのか、フィードバックし、今後に反映させていく。**

事業成果の概要は以下のとおり。また、これらの内容は年次をおって検証していくものとする。

- ・ホームページでの情報発信 70回
- ・ライフデザインだよりでの情報発信 9回
- ・多世代交流 「まちかど家庭科室～ふらっと～」の開催 2回（初年度） 次年度4回
- ・校内研究推進委員会 月1回
- ・コンソーシアム検討会議 2回
- ・運営指導委員会 2回
- ・小松文化祭・小松地域未来塾・五百亀記念館など地域での発表 4回

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

研究開発に当たって、「地域課題研究」の最大の効果を上げるためには、**地域課題に関する研究、外部との連絡調整、地域資源の調達、地域での活動、教員加配等についての検討、普及活動、発表会に向けた準備、コンソーシアム等における検討会議**等、以下の内容で行う。

- ・運営指導委員会 2回
- ・コンソーシアム検討会議 2回

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

○ **「椿の香りと文化」のまちづくりの活性化**

学校設定科目「ライフデザイン」や科目「課題研究」、学校家庭クラブ等の活動として、**継続して市と連携し、高速道路SAや道の駅等での販路を維持**する。

○ **生活文化・生活産業の振興**

地域が誇る貴重な資源や食文化の価値の継承は「ライフデザイン科」がこれまでも授業や課外活動等で実施してきた。これらの生活産業や生活文化のさらなる振興に向けて、本科卒業生が従事する産業とのこれまで以上の強い連携をもとに、卒業生を外部講師として活用した授業の実施を積極的に行うことでロールモデルとし、**地域の魅力化・活性化に仲間とともに寄与する人材**をさらに育てていきたい。

○ **地域コミュニティの活性化**

子育て支援や高齢者の生きがいがいづくりに参画し、互いに学び合う「**まちかど家庭科室～ふらっと～**」は、本事業で得た地元産業等や施設等とのネットワークをもとに、参加者や実施内容によって開催場所を提供していただき、**定期的**に開催する。小・中学校や、子育て支援施設との協働により、**地域コミュニティの再構築を継続して実施**したい。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	えひめけんりつこまつこうとうがっこう				②所在都道府県	愛媛県	
2019～2021	①学校名	愛媛県立小松高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	創立112年目の伝統校である。各学年とも普通科3クラス、ライフデザイン科1クラス。ライフデザイン科は、県立学校唯一の家庭に関する専門学科である。		
ライフデザイン科	34	31	28		93			
⑥研究開発構想名	生活文化の伝承と多世代交流 共生のまちづくりに貢献する人材の育成							
⑦研究開発の概要	<p>(1) 地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究</p> <p>(2) 学習指導方法の研究</p> <p>1年次 地域の生活産業・生活文化を知り、課題を考える</p> <p>2年次 地域の生活産業・生活文化、多世代交流、共生のまちづくりを研究し、課題解決を図る</p> <p>3年次 地域の生活産業・生活文化を広め、多世代交流、共生のまちづくりに取り組み、地域に貢献する</p> <p>(3) 地域課題研究の評価方法の研究</p> <p>(4) コンソーシアムとの連携の在り方についての研究</p>							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>少子高齢化や人口減少が進展する中、持続可能な社会の構築に向け、課題意識を持ち、生涯にわたって様々な人と協働しながら、地域課題の解決を目指し主体的に行動し、生活文化の継承、生活産業の振興や多世代交流、共生のまちづくりに貢献する地域人材の育成を目的とする。地域人材に必要な力は以下のとおりであり、今後構築するコンソーシアムと協働して取り組む地域課題研究を通して育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域で活躍できる人材として必要な専門的知識・技術 ○地域の課題発見力・課題解決力 ○地域の課題解決のためのマネジメント力 ○他者と協働し学びを深めるコミュニケーション能力 ○商品開発を通じた発想力・企画力・実践力 ○地域課題研究の成果をまとめ、発表する表現力 <p>以上のような力を持った地域人材を育成するため、本研究では、地域課題研究を「課題研究」だけでなく専門教科「家庭」の他の科目や「福祉」の各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムや学習指導法、地域課題研究の評価方法、コンソーシアムとの連携の在り方について研究する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>ア 現状の分析</p> <p>本校はこれまでも地域と連携した実践的・体験的学習、家庭科技術検定への取組、介護職員初任者研修の実施など特色ある教育活動を展開し実績を上げてきた。平成27年度に実施した調査では、「地域社会に役立ちたいと思っているか」の問いに全員が「地域に貢献したい」と考えているが、「自信はない」と回答した卒業生が多いことが明らかになった。</p> <p>イ 仮説</p> <p>コンソーシアムと連携し、地域課題研究を行うことによって、地域への課題意識と貢献意識が育成され、自信を持って地域社会に貢献したいと考える生徒が増えるのではないか。</p>						

⑧- 2 具 体 的 内 容	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p><1年次> 地域の生活産業・生活文化を知り、課題を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な開発目標(SDGs)に関する学習、地域理解学習、課題発見と課題解決に向けた提案 ○伝統産業・生活関連産業見学、生活文化に関する講義(椿文化・魚食文化)、地域特産品に関する講義 ○県外研修…東京都(アンテナショップ他、特産品調査)徳島県上勝町(葉っぱビジネス・ごみゼロ作戦、地域活性化)尼崎市(みんなのサマーセミナー、多世代交流) ○多世代交流「まちかど家庭科室～ふらっと～」の計画、椿の庭園整備 <p>「課題研究」を新設してSDGsの学習、持続可能な社会の構築に向けた地域課題解決学習を行う。また、地場産業の見学、県外研修や交流を通して、生活産業や生活文化を理解し、文化の継承や多世代交流、共生のまちづくりについて学ぶ。</p> <p><2年次> 地域の生活産業・生活文化、多世代交流、共生のまちづくりを研究し、課題解決を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○椿文化の研究 ○魚食文化の研究・普及 ○はだか麦×特産品で加工品研究 ○少子高齢社会に関する研究活動「まちかど家庭科室～ふらっと～」の開催 ○各種コンクールへの挑戦 ○県外研修…京都伝統産業研修、横浜資生堂リサーチセンター・長崎五島椿油研究試作施設等の研究所見学 <p>「椿文化」や「魚食文化」、「はだか麦×西条市特産品」について研究し、地域と協働して新たな価値を付加した特産品を開発する。また、西条市子育て交流センターや公民館と協働し、多世代が交流する「まちかど家庭科室～ふらっと～」を開催する。</p> <p><3年次> 地域の生活産業・生活文化を広め、多世代交流、共生のまちづくりに取り組み、地域に貢献する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○椿文化の普及 ○魚食文化の普及 ○はだか麦×特産品の商品化・販売 ○多世代交流「まちかど家庭科室～ふらっと～」の定期開催 <p>椿を利用した新たな特産品、地元魚介類を使用したオリジナルレシピの開発及び学校給食や地元飲食店への提案、魚食文化を生かした食生活改善提案、及びそれらの商品化に向けた制作活動とSNS等による販売活動を行う。また、多世代が交流し互いに学び合う「まちかど家庭科室～ふらっと～」を定期的に開催し、共生のまちづくりに貢献する。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>月1回開催する研究推進委員会にて、1か月ごとあるいは学期ごとに地域課題研究の指導内容や指導方法について評価し、改善を図るPDCAサイクルを実践し、カリキュラム・マネジメントを推進する。</p> <p>また、コンソーシアムにおいて、将来の地域ビジョンや求める人材像を共有し、生徒たちが地域の企業や施設・団体等と連携して、地域において地域課題の解決に向けて実践していくことができるよう支援する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
⑨その他 特記事項	特になし